

新年賀謹



猿払村議会議長
太田宏司



猿払村長
伊藤浩一

村民の皆様、明けましておめでとございます。
希望に満ちた令和3年の新春を皆様とともに迎えられることを、心よりお慶び申し上げます。
また、平素より村議会の活動に対し、深いご理解と力強いご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
昨年を振り返りますと、国内はおろか全世界中が新型コロナウイルスの猛威にさらされ、初めは遠隔の地から北海道へ、やがて宗谷へと感染の波が徐々に近づき、一人一人が恐怖と闘いながらも対策の難しさと、一方で医療に携わっていた皆さんの皆さんのご苦勞を、あらためて実感した1年となりました。
このご挨拶を執筆している時点で、幸いにも猿払村においては、感染された方はおられません、村民の皆様には

村民の皆様、新年明けましておめでとございます。
令和3年の新春を健やかに迎えにいられたことを心からお慶び申し上げますとともに、平素から村政に対し深いご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。
さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、その影響は日本においても緊急事態宣言による外出自粛などの形で現れ、健康被害に止まらず人的交流や経済にまで甚大な被害が及ぼされた1年でありました。しかし、この窮地において、民間企業ではリモートワークの導入が進み、飲食業ではテイクアウトやデリバリーの対応、家庭では布製マスクを自作するなど、様々な創意工夫で困難を乗り越えようとする動きが随所で見られました。
本村におきましては、村民

“新しい生活様式”にも慣れて来られたと存じますので、ワクチン接種を全国民が受けられ元の日常を取り戻せるまで、今しばらく我慢の生活をお過ごしいただきますようお願いいたします。
こうしたコロナ禍にあっても本村のスポーツ少年団や小学校では、スポーツや芸術の分野において、数少ない大会をしっかりと戦い抜いて好成績を収められており、次代を担う猿払村の子ども達の力強さに希望の光が輝いて見えますが、引き続き、指導者の皆さんの教えを守り、鍛錬し力を蓄え、より一層の活躍をされるよう祈っております。
猿払村議会では、従来にも増して議会の諸般の問題に取り組んでいく所存ですが、現在の情勢において日常の暮らしができない村民の皆様や、今後の経営の見通しが厳しい各企業の皆さんがおられるな

の皆様へのマスクや消毒液の配布、商品券の配布や地場産品の活用支援等を行ってまいりました。今後におきましても、行政として何をすべきかしっかりと考え取り組んでまいりますので、村民の皆様におかれましても、感染予防対策を引き続き行っていただきますよう、ご協力をお願いいたします。
また、このコロナ禍において地域医療の重要性が一層高まる中、昨年の10月から国保病院の副院長として佐藤克哉医師が着任されました。佐藤医師は、みんなで協力して地域医療を長く続けていきたいという目標を持っていますので、村民の皆様の健康の支えとなるご活躍を期待いたします。
もう一つの明るい話題が、地域おこし協力隊員として新たに4人の仲間が増えたことです。新たな産業の創出に向

か、常に村民の立場に立ち、福祉の向上と地域の発展に貢献するということ本来の使命を再認識し、執行機関への監視機能のみならず、“両輪”として協調・協力し精進してまいります。
今後におきましても、さまざまな村政課題の解決に向け、村民の皆様の声聞き、議論を重ね、議会の改革・活性化に取り組みながら、村民の皆様へ期待いただき、その期待に応えるよう、誠心誠意尽くしてまいります。
今後、村民の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして幸せで実り多く、更なる飛躍の年となりますことを心からお祈りし、新年のご挨拶いたします。

けて進めている施設園芸栽培調査研究事業では、農業用ハウスが整備され、地域おこし協力隊員が中心となり葉物野菜の栽培が始まっています。
春にはイチゴの栽培も開始する予定となっており、引き続き、栽培データの取得・分析を進めてまいります。
私事ですが、この12月をもって2期目の任期が満了となります。この1年を、村民の皆様が安心して暮らせる村づくりのため、そして私の目標でもある「誰にでも やさしい まちづくり」の実現に向け、職員と一丸となって全力を尽くしてまいりますので、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。
結びに、新しい年が皆様にとりまして、希望あふれる素晴らしい年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。